アルコールには、さまざまな病気のリスクがあります

アルコールは血液を通じて全身を巡るため、いろいろな臓器に病気が起こる可能性があります。

また、飲酒による影響には個人差があり、年齢・性別・体質等の違いにより、それぞれ受ける影響が異なります。

純アルコール量と病気の発症リスクの関係

１日あたりの純アルコール量が少量　男性の高血圧・胃がん・食道がん、女性の高血圧・脳出血

11ｇ以上　女性の脳梗塞

14ｇ以上　女性の乳がん

20ｇ以上　男性の大腸がん・脳出血・前立腺がん、女性の大腸がん・肝がん・胃がん

40ｇ以上　男性の喫煙者の肺がん・脳梗塞

60ｇ以上　男性の肝がん

少量の飲酒でも発症のリスクが高まります

参照：健康に配慮した飲酒に関するガイドライン（厚生労働省）

発行：大阪府こころの健康総合センター